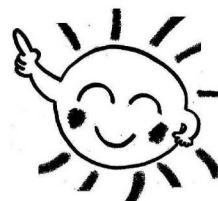


SUNSHINE

第59号 2011年 10月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市荒田2丁目43-19 TEL099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com
 URL http://www.taiyou1991.com/



太陽開発

検索 クリック!!

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します! オーナー内田様

今回、ご紹介させていただくマンション(オーナー様)は、新屋敷町の塩屋公園前にあります、「ラ・ベジフルビル」のオーナー内田様です。4階建てのマンションで2,3階が居住用スペースになっており、現在2階のお部屋を1部屋入居者募集中です☆近くに銀行、スーパー、コンビニ、ドラッグストアなど何でも揃っており、天文館にも歩いて5分ほどで行けちゃう最高の立地です!! もともとは、1階から4階までお店が入る事業用だったマンションを、12年前に内田様が購入されて、マンションの鉄筋だけを残し、外壁から内装まで全てリフォームし、居住用のマンションとして造りかえました☆

1階では、「くいもん道場ひゃっこ」という内田様ご自身が経営されるお店があります。「くいもん道場ひゃっこ」では通信販売を主に、お持ち帰り用のもつ鍋と黒豚しゃぶしゃぶのセットを販売しております。お店の奥にある工場で、もつやスープの仕込みなどをして、真空パックで全国どこでもお取り寄せできるようになっております(°^°)

もつ鍋は楽天市場の鍋料理ランキングで全国1位を受賞されたこともある自慢の商品です!是非みなさんも一度ご賞味あれ☆



東南の角部屋!
白当り良好☆

現在入居者募集中!
広々22帖のワンルームのお部屋です☆



さつまどんばり
薩摩香巴里
内田様はご自身で焼酎もプロデュースしており、この薩摩香巴里は特選された米麹と鹿児島県産のさつまいもを主原料とし、大自然の霧島山系より沸き出る清麗な湧水を使用している、丁寧な手作業で作ったこだわりの1杯です!贈り物などに最適です☆



「くいもん道場ひゃっこ」のもつ鍋は
楽天市場の鍋料理ランキン
グで、なんと **全国1位**を受賞!



東京丸の内にある“帝国劇場”が今年100周年を迎えました。旧帝国劇場が、明治44年(1911)3月1日に開場、そして現在ある新帝国劇場が昭和41年(1966)に開場したのだそうです。この夏、久々に東京に遊びに行く機会を得た私は、OL時代の友人二人と帝国劇場100周年記念公演として上演されていたミュージカル『三銃士』を観ることにしました。OL時代は“帝国劇場”からも程近い日本橋で働いていたのですが、貧乏OLだった私には敷居が高くて、今回初めて足を運びました。東京在住の二人とは、劇場入り口で待ち合わせ。久々に友人に会えることと、初めての帝国劇場での観劇で、かなり胸躍らせて劇場に向かいました。入り口付近は、多くの女性ファンで埋め尽くされていましたが、すぐに二人を捜し出すことが出来ました。中に入ると“帝劇開場100周年”のお花のアーチに迎えられ、ロビーはおしゃれした女性が溢れており、とても華やかです。作品は、テンポ良い展開、切れのある演技と踊り、そして圧倒的に上手い歌声に魅了されるばかりでした。そして楽しい時間はあっという間に過ぎ、カーテンコールにも何回も応じた上、なんと帰りは劇場ロビーにて俳優さん自ら(三銃士役の三人)のお見送りのサービスも。本当に楽しいひとときでした。今月28日には映画『三銃士 王妃の首飾りとダ・ヴィンチの飛行船』も公開でこちらも楽しみ。



shoku 楽 Dining 「ぼっけもん」



今回ご紹介させて頂くお店は、市電騎射場電停から歩いて2分の所にある『shoku 楽 Dining ぼっけもん』さんです(°^°) 外観や店内は、おしゃれで落ち着いた感じのある造りで、見た感じは、Barなんです(笑) 『実は焼き鳥屋さんなんです!!』 大将の松岡様は、屋台で焼き鳥を焼いていた経歴の持主です。今年の2月に念願の騎射場に出店!! 店内は、カウンター席含む27席あります。大将に色々お話を聞いた時、カウンターに座ったのですが、すごく落ち着く席でした(自称:カウンター席好きの私としては、オススメ席です(笑)) 是非、体感して見て下さい。大将のこだわりは 『女性が1人でも気軽に入れる焼き鳥屋さん』(°^°) 女性の方が気になる、煙の匂いが、洋服や髪の毛につかない様に、あえて焼場を客席の裏側へ!!(大将苦渋の決断) メニューも2週間に1回のペースで変更している為、県内産の食材を仕入れ季節ごとの旬な料理をたのうできます。

★最後に大将から一言★
『おしゃな店構えですが “焼き鳥屋です” (笑) 気軽に来て下さいね』 PS. 私もデートに使うので、見かけてもそっとしておいて下さい(笑) 守屋



鹿児島市荒田2丁目74-5 1F
TEL 099-206-9550
 営業時間 18:00~25:00
 定休日 日曜日



今月の一冊 アレクサンドル・デュマ 訳:竹村 猛

三銃士

un pour tous, tous pour un

1802年北フランス生れ。ナポレオンに仕えた將軍である父と幼くして死別し、恵まれぬ幼少期をおくる。作家を志し、20歳でパリに上京。戯曲『アリン3世とその宮廷』が成功をおさめ、19世紀フランスを代表する人気作家となる。なかでも『三銃士』『マテオ・クリスト伯』をはじめとする歴史冒険小説は、新聞連載から絶大な人気を呼び、いまなお世界各国で読み継がれている。

1914(大正3)年生まれ。東京大学仏文学科卒。台北帝国大学講師、台北経済専門学校教授、東北大学助教授、埼玉大学教授、中央大学教授を歴任。バルザック研究に生涯をささげる。87年没。訳書にデュマ『三銃士』『マテオ・クリスト伯』、バルザック『三十女』『純愛ウジェニー・グラント』他多数。



17世紀のパリ。都で一旗あげようと、意気揚々と上京してきた青年剣士ダルトニャン。3人の剣士、アトス、ポルトス、アラミスにひよんな行き違いから決闘を申し込まれるが、逆に四人は固い友情で結ばれる事となり、悪玉リョリュエ枢機卿らの企みに挑む。枢機卿の陰謀にあわや身の破滅かと思われた王妃の危機を、見事救ったダルトニャン。ほっとしたのも束の間、謎の妖女ミラデーが登場、あらたな冒険の幕が切って落とされる。ダルトニャン、そして三銃士の運命はいかに? 手に汗握る冒険活劇の名作を、躍動感溢れる名訳で贈る。(角川文庫ブックカバーより)

ミュージカルで『三銃士』を観て、とても面白かったので、本も読んでみました。普段、外国のしかも古典物はほとんど読まないですが、舞台を観、パンフレットも読んで、大まかなストーリー、時代背景、人物設定等が分かっていたので、読み易かったです。歴史冒険小説としてストーリーそのものも、とても面白いのですが、劇作家としての文章の形態が、優雅でウットに富んでいて、将に舞台を観ているようで、夢中になって読みました。